

光基工業株式会社

産業機械部品、自動車部品に続く3本目の柱を模索 食品機械分野を本格展開



■ 産業機械部品と自動車部品の加工を手がける光基工業



■ 食品機械関連の部品加工を強化



■ 一品ものから量産品まで対応する



■ 主軸回転数が最大1万5000回転の横型MCを導入。アルミ加工への挑戦に大きく貢献した



「より幅広く食品関連業務に乗り出したい」と佐藤岸男会長

data : こうきこうぎょう

代表者役職名・氏名／代表取締役・佐藤秀介
設立年月日／昭和59年10月1日
住 所／〒459-8001 名古屋市緑区大高町字一番割38番地
電 話／052-622-4422
F A X／052-623-6738
U R L／http://koki-ind.co.jp/
E-M a i l／k.sato@koki-ind.co.jp
資 本 金／1000万円
業 種／各種産業機械の部品製作・組み立て、自動車部品の加工・組み付け
従業員数／32人

産業機械と自動車部品が柱

光基工業は産業機械部品と自動車部品の2本柱で事業を展開している。機械装置の設計者だった佐藤岸男会長が30歳で立ち上げた。「設計だけでなくものづくりもやりたい」と、次第に今の業態に移行していった。産業機械向けはバンドソーやレーザ加工機などの部品の切削加工で、要望があればアセンブリーまで手がける。一品ものから量産品まで守備範囲が広いのが特徴だ。

2本目の柱である自動車部品はダグタイプ鋳物の切削加工が中心で、主にトラックに採用されている。本社に近接する第2工場が自動車部品

事業の専用工場になっている。売上げに占める割合は産業機械向けが約50%、自動車部品が30%から40%、残りが立体倉庫などで占めている。2本柱が確立していることから、リーマン・ショックなど過去の不況期も乗り越えることができた。

3本目の柱を模索

2本柱があるとはいえ、このところ産業機械部門が少々停滞気味。自動車はまずまずだが、景気に左右されない3本目の柱を模索していた。そこでターゲットを定めたのが食品機械部品の加工業務。景気に左右されにくいものの、食品機械はアルミやステンレスなどの材料がメーン

なので、鉄系材料を削ってきた同社からすると必ずしも得意分野ではない。特にアルミ系材料は、加工機の回転数を上げなければ加工精度が出にくい。

既存の工作機械を応用するのは難しかったので、「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」を活用し、横型のマシニングセンター（MC）を導入した。採択テーマは「TPPを契機とした食品産業の競争力向上に貢献する食品関連製造装置部品精密加工進出事業」。別途、平成29年度にも同補助金で縦型MCを導入し、食品関連事業を拡大する準備は整った。

食品関連分野の拡大狙い設備投資

実は食品加工機向けの業務は、商社を介する形で約5年前から始めており、すでに売上げの10%近くを占めている。軌道に乗りつつあるが、設備をそろえたことで「駆動部分だけでなく、より幅広く食品関連業務に乗り出したい」（同）考えた。製品はアルミが中心で、切削性は鉄系材料と比べると良好だが回転数を上げなければ精度が出ない。

新たに導入した横型MCは主軸回転数が最大1万5000回転と高速で、アルミの加工に適している。また専用の治具も製作した。しかも加工時間を長くとれるので、1人の作業

者が複数の工作機械を担当することができ、生産性も向上した。もちろん24時間稼働も可能で、「加工時間はざっと30%は短縮できたのではないか」（同）とみている。食品関連事業は順調に伸びており、「品質トラブルさえなければ3本目の柱になりうる」（同）と期待している。

お金には換えられない効果

横型MCを導入するにあたり、社内にプロジェクトチームを設けた。チームでは今回の設備導入だけでなく、将来を見据えた投資計画なども検討している。創業者である佐藤会長はこつこつと設備をそろえ、今の業態を確立させた。製造業である以

上、設備投資は必要不可欠だが補助金がなければ設備投資は停滞していたかもしれない。それだけに「補助金を獲得できたことで投資意欲が湧くし、次はどんな投資をしようかと考えるだけで楽しい。社員のモチベーションも確実にアップしており、これはお金に換えられないものだ」と補助金効果を説明する。

中小メーカーとしては闇雲に設備投資することはできない。しかしうまく補助金を活用すれば、長いスパンでものを考えることができる。食品分野を拡大して3本目の柱にすることができればより安定した企業体制が確